

皆さん新年明けましておめでとうございます。

令和4年の仕事始め式に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

始めに、山田能新議長、神田全記副議長、並びに議員各位におかれましては、新年早々のお忙しい中にも拘わりませずご臨席をいただき、職員に対しご激励を賜わりますこと誠に有り難く厚く御礼を申し上げます。

どうか本年も引き続きご指導を賜わりますようお願い申し上げます。

改めて職員の皆さん方には、それぞれに新春の幕開けを新たな決意をもってお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

すでにご承知の通り、世界を震撼させ続けている新型コロナウイルスは、感染株が変異を繰り返し、新たなオミクロン株として脅威をもたらしていますが、お陰様で県内及び市内においては、今日まで市中感染の事例は報告されておらず、この年末年始は緊張感を持ちながらではありましたが、穏やかな雰囲気にならぬまま過ごすことができたものと思います。

また年頭の主な公式行事である成人式につきましては、昨年コロナ禍の影響で開催を見送らざるを得なくなった方々が自ら実行委員会を主催し、去る2日に「成人祝賀会」という形で開催してもらうことができました。若い世代のひたむきな情熱と行動力に改めて敬意を表しますと同時に、翌日には、本年二十歳の節目をお迎えになる方々の成人式を開催いたしました。人生の節目をお迎えになられた皆さんへの祝意とともに、今後ますますのご活躍を期待申し上げます。

さて、私は昨年末の仕事納め式の市長訓示の中で、本市が大きな節目にあたり、新たなステージに向かう段階に入ったことを申し上げました。

その場合、必要になるのは、その新しいステージに相応しい発想や実行力です。「そのうちやってくるだろう」と予想していた5年ほど先の未来が一気に迫りくる現状にあって、これまでの経験や前例を機械的に踏襲することは無論、通用することではありません。

そこで私が皆さんに提案したいことは、名付けて「二分の一思考」です。これを「ハーフ・アイデア」という言うべきか「ベイシック・シンキング」と言うべきか迷っているところですが、言いたいことは、「思い付きを育ててみよう」ということです。

従来ありがちな状況は、担当者が自らの立場や責任において、新規提案の事業を考える時、

発想となる種から芽を育み、枝葉を伸ばし、実を結ぶまでの流れを事業の全体像として描こうと努めます。またそうであることが理想とされ、そうしなければならないという既成概念とプレッシャーに抑圧されそうになることが、一般的な傾向のような気がします。

私自身もときおり「アイデア豊富ですね」と言われたりするのですが、実はそのほとんどが中途半端な思い付きで提案をすることも多く、正直申しまして、そのアイデアが自走してゴールまで達する確率はほとんど低いことが多いのです。本音を申し上げると「下手な鉄砲、数打ちゃ当たる」の類です。

そこで重要なことは、その下手な鉄砲を受けている相手が、発射された数多くの弾の中から実を結ぶ可能性のある種に気づいてくれることだと思います。

例えて言えば、ラグビーの選手が、一人でボールを抱えエンドラインからゴールのタッチラインまで独走することはあまりありません。途中で敵のディフェンスに遮られ倒され、あわゆくばボールを奪われかねないので、優秀なチームは、味方に適切なパスを送りつないでトライを目指します。まさにそのスポーツチームのパスワークに似ているということです。

行政組織内において、担当者個々人が独りぼっちで抱え込むのではなく、隣の同僚にそのアイデアとなるボールをパスしてみる、あるいは班長や課長などにもパスしてみる。そして上司もそのパスを受けてみて、そこで瞬時に評価をくださるのではなく一緒にゴールを目指して走ってみる、そんな繰り返しが必要だと思います。

時には部長や課長のほうから部下職員にパスを送ってみる。彼らは、どのような走りをしてみせるか、そして再度パスを送り返してもらって、上司の立場で気づかされることもたくさんあるのではないのでしょうか。

つまりアイデアの種から実を結ぶまでの工程は、一面的なアプローチで突き進むよりも、あらゆる角度から複数の目線や価値観に照らし合わせて、チームとして磨き上げていく事が重要であるとここに提案したいと思います。

改めて令和4年度は、第二次平戸市総合計画の後期計画策定作業が控えています。平戸市の未来を描く羅針盤として位置づけられた最上位の計画でもありますが、市政の各種現場では、依然として様々な行政課題が山積している状況に変わりはありません。

こうした中、与えられた業務を迅速かつ的確に対応しつつ、迫りくる次のステージに備えて行政が果たすべき役割や制度などを組み立てていく政策立案などの作業が待ち受けています。

どうか、多くの市民の皆様にご安心と希望を抱いてもらえるような後期計画となるよう、職員各位のワン・チームとしてのスクラム力を発揮し、目的達成のための奮闘努力を期待するものであります。

従来、この仕事始め式の市長訓示では、その年の干支にちなんだ内容に合わせた内容を申し上げてきましたが、昨年でちょうど 12 回目となり一周したところです。今年は、寅年にちなんだ故事を考えようと思いましたが、冒頭の「二分の一思考」の話になってしまいました。しかし、よく考えると、この提案そのものが「虎穴に入らずんば虎子を得ず」の内容そのものではないかと思えます。

未だ得ることのできていない「虎子」を思い描くよりも先に、とりあえず「虎穴」の中に思い切って入ってみる、そんな勇気と決断が必要な一年を迎える覚悟をそれぞれに抱いてほしいと思えます。

こうした思いを、私自身、年頭に当たって改めて職員の方々と共有し、心新たに一丸となって全力で取り組んでいこうと決意を新たにしているところです。

結びになりますが、本年が平戸市民の皆様にとって、素晴らしい年になりますことと、議長はじめ議員各位の益々のご健勝、併せて職員各位の更なるご奮闘を期待申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

終わります。